說社

第四回航空日を迎へて

苛烈なる血戦であったといる。 而してルーズペルトは、十對一 の消耗を以つてこの戦心を勝ち

に持ち、物の個みを知らぬその

かくて、如何に日本人に大和魂 民族した【野道=その大金式場】

あいと離も、この数字を以って

るに、陸軍機は工百八十九機 巨五十機、海軍機に於いて巨八

納がもつとく織出すべきであ

種生たらしむるための訓練が

少年飛行兵路君が、初秋の空を

られることは演に歌ばしいこと

更に航空歌は、只覚に飛行機

列のうちに滑空訓練整演飛行訓練を練展げ城東原頭は獺然、比重の氣満ち、我等大空に征かんの決意を 日京城運動場で開催、魏徽米英昭波の烈々たる敵愾心を沸ぎらせた、一萬五千の恩徒は一糸乳れぬ楽

一語君、久しい間の次

ふ、ラジオでは長い演説が出來な

れたといふことは未だいって聞か

空軍の大半は保全

将兵踏君、女子ファシスト

國王の裏切明白

的別力を促む以て航空の整選に客 大空に散華 せる軍官民一努めつゝある事質はこれを維無に

事を単行するのである、京城第二

麗 學徒 聯起航空大會

の空への関心は非常に昂まって來 ある、我が國に於ける青少年的 たね航客決戦が離けられてゐる秋 りことに第四回を迎ふ、日夜を分

殿髯航空決版の非常に鑑み重點を

商に置いてゐるのである、しかし

戦闘繼續あるのみ

【東京電話】寺島選相は廿日の第一

おけるファシスト國家でなけれ

國家は國家主義であると同時に

一版國民の選起を製躍した

ム統帥烈々の獅子吼

ミレミのらもプ級形大本感において上級 が即はグランサツソオの山荘から救ひ出

で決せんとして最近焦躁的に

一人が空の決職へ飛び立をずに 航空日に於いては、國民の一人 然るに今日ことと述べる第四回

かつての航空日は、空への開

聞くに、アツツ酸に於ける神

右は大東亜酸钼開始以來陸軍大尉大平忠夫指加の下に又昭和十七年

航空戦は苛烈續け斷

航空力ぞ勝利の鍵

辱を受けなければならないのであ

トイツ歌と相勝へて酸多の慰場に

これたイタリヤ戦隊は地中海にお一た降伏政権の責任は以上の事

世に

が下る、それだのに、からいふ必

一生懸命にやってゐることには頭

の小さい感情と利害から原け切る

を勝ち抜くさとが出來るものと固

東西の天地をわが航空機を以て撤

日獨と共に起て

白石遞信局長が强調

南方方面陸軍航空部隊最高指揮官

近に友質地上部隊と入るに敵前上昭和十六年十二月十日ルソン場所

ジャワ島の奮戦

比島の奮闘狀況

陸一軍一省後表(九月十九日十六時)大東重國事開始以來各方面の飛行場改定に優秀せる河腦飛行場散定 同配應部隊及び特に湊州方面の標準に武功汝常なる佐々木飛行中隊に對し、さそに南方方面陸軍航空部隊最高指揮官より

る観見を収めりてその戦略財際的関連の優大なるを理論せりる観見を収めりてその戦略財際的関連の優大なるを理論せり

感狀に映ゆる武勳



草月 一通子太陽中将第 社會資金 的行業

認確水磁によって軽沈さ

雲は十八日公報をもつて強酸に立 解沈した国登表した 水域において敵機衝撃設践一隻を って作歌のイタリヤ潜水器が緊海 【ベルリン・八百時間】 藤統大本

家隊の本領を遺憾なく發揮せるものにしてその武功抜群なり 期の如きば中隊長を核心とし将兵一龍勝石の頭船を以て常に烈々

昭和十七年七月朝じて 家田部隊の 悪下に入るや 「パンダ』 海方面 この間見く人的物的の有ゆる困難を見限し至後なる敵機の哨

佐々木大尉略歷

バンダ海の奮戦

同中隊に對し旅游状がかられる

だから』と言つてゐたので観光

大尉は生前『施が死んだら盛い

世界 神信に

偵察に偉勳 日爆の大平大尉

> 陸和の度旁であつた。 の地には英原は立て、ない、

伊商船七隻を拿捕

はこれら連地を利用しわが荒棄が

一般、その二ケ所に大爆弾を超さし島外四ケ所に火災を生ぜしめ、うち一ケ所は大火災が、回り燃火艦る火艦をしり国に全機燃火 暗遭し

「南太平洋〇〇基地十九日同盟」フロモン海域をめぐる彼紫

伝派州 バンダ海方面に 進攻を明 始した、しかしこの方面に第一線

河端少佐略歷 伍少



命令を受けた河端部隊長は窓

作戰の根抵確立

河端部隊の敢闘戦記

4

大尉 (和欧山駅出身) は00債家

電下の部隊が占握するアドリヤ海 関部家は十七日イタリヤ時伏敗衛

に遺物配を拿擠した、同時にイタの類別ならび

ザラつかす 総回路のす 切ひよく 場合の で

ライオン協居

東重要港級を攻略商船七巻を

リヤ海軍将兵四千名の武機解除を

反樞軸船團爆擊

六〇六號と

蒐集した各種作取資料なわが海南「もあった、シツタン裏河に成功 ることを確認し、もつてわが作取 以來協力して概断空聖滅に困難と「任命を欲旨した同中線な位來会く」「佐々木飛行中隊はビルマ作威開始」昭和十七年第ペンダ維方面の拠素 戦闘資料の蒐集 佐々木部隊の奮戰記

型 とは、 は、 ででしたりサレルノ激励にお は、 ででしたりサレルノ激励にお 運差的数壁に直撃戦を沿びせたいて反偏軸的がを素態的物品的に

消息

陣を强襲

6 室への帰心の今日極

部隊は宝たもニュージョージャ島ムンダの 数陣地を難襲し無烈な敵地上の砲火を巧みに漕づて的艦な必円職を雨と狂宝

【リスポン十八日同盟】メルボルン來館=西南太平洋反陽軸国司令部は十八日來の如く必要した『十七日

ところもあるが、参加省が何れも 婦人班員の豪も誤索しい▲気合ひかぶりながらバケツを避んでゐる に顕起になって居り、頭から水を 近各級國班が、総出 になって水掛け流習

原澤雙榮工祭供式會的 を 東京 八〇五二番

結核専門薬

研究三十年

漸く完成/

の接遷幣で、第二班が訓練してゐ

がはしい▲町ら第一班と第二班と

との出來ない人間があるのは歌

なったので、そこの第二班の方に

能凍、愛養と安静の他に療法の たが治療薬が完成しました。 心だ治療薬が完成しました。 対域患者よ、お客び下さい人科 ■と優養の二作用を完備したと が作べ、その彼にとの源名を許 されたのであります。 御服用あれ 16 00 平 600 性質 新二 社 電 式 体 类 數 單 報 給 監 報 幹 幹 二 一 別 野 朝 戸 二 一 別 野 朝 戸 二 一 別 野 朝 戸 二 一 別 野 朝 戸

様に第二部の水を囲ばれてたまる ある水槽の水を囲ふことも監然に

の場合、そんな時、第一班の^訓

ったとすれば、その結果はどんな

のかと、文句をつける人間があ のであらうか▲張國帝の仕事が

もないが、何故の水掛け流習で 質的にお役所の仕事と関い、相

助に強してあることはいふま

るかを渇へ直せば、相互扶助を

ちた態度派を、備の家の水で消す 隣保互助にまで擴大せねばならぬ

しとは必須である▲お肌の家に密

法があるかといる抗聴が、殊に献

一般は関する。 まっこ。 まっこ。 一般は関する実で、そんな人がないことを認 に精神的 出来ないとすれば、扱うた以上に であなないとすれば、扱うた以上に 家に急告 時に於いて許さるべきでないこと 10 0 • 20 0

一冊報で約四百頁切手代用は次料共四額を四十八枚会れ、開地で、2000年の本本部、開土の経済の名は由を根据した。開土が経済の名は本年表現では、一様大賞の名は由を根据した。開土は、1世にあり後、東九十銭切手に対したはのまりができる。 常用漢和辭典的三世ペン 据**30** 企文**有**九四町沸り野中京東







翼の

一般の賦脱に夕気の決戦に識じて勝たねばならぬくの緊ਆ

、多数の飛行機を急進して前級

動気して関に進む

敵機の襲派を

來れ汝矣島へ多彩の行事 大饗宴

の日午後一時すぎ根垣原館取司令一ウ(田中)が經得・晴れの楽行をな翻訳が語めかけて暇はつた。こ一二目来)京畿道知事管はコクテョ

監上高は六十五路回を突破、

狂させ、第十競馬新呼特別(二十

板垣

将軍も観戦

常振頻度、同京愛巡振頻度、朝鮮國防航空團共催で航空日を控へた十九日午前九時から京城運動場で銀行々われ山本海神を最ずん、 をிき、若き歴史の即朔は延免む易の疑いも置く兄歌に纏かんとする暴歌の麒麟和を撃成し、こくと、夢徳高宗殿和大言々は朝鮮候趣國の興盛・大東郎百年の巡船を絶して管資・北諸に日夜無鴻なる郡宗法職が駆けられてあるとき ひをぶるべの 黙視は全國の基礎

五日目出場馬

田) 3 サイレイ (中野政) 4 ケダケ (高谷) 2 タチカゼ (

空大

われ川駿河神に強かん、兄城の健実を限承せん》の一大決議を始揚した

敵擊滅 學徒一萬五千鐵血の

校、なけ、大 墨約一萬至 の式跡に引随き、ける明れて思

飛行機二千機が風れ飛ぶ肚職|軽

航空日を前にして十九日

題山本内發始異は『寝空機が玩具

一分、三分・『ワツ張いや』と飛鞠し見室の手は図く遅られる

鮮産で作れ航空機

の増盛こそは戦局を左右する 苛烈なる航空決職下、航空機

> 中であるが朝鮮の経金盛工業 は豐富な電力を擁してその將

> > 朝鮮の軽金層は未だ初期に

眠る輕金屬へ技術陣擴充

には先づ航空機生産の主席を **総急重大問題であるが、** 競人豆翼の精鋭

漢江砂原上空ニー千機の亂舞

三年小川八郎、京城中坐五年力武・マイー南南場関西スタンドに納ず、郷館を立て、南場の上窓を図く弧置すればこれに願へて城大路暴部」と決意文を駒々と頼めあげる。か、埼五分園表北進の北版を駅はせる

日朝鮮航空観化下城市影節長を助してゐるとき、京城中區南大門通してゐるとき、京城中區南大門通

金にまたは航空資金の客附等に示 荒鷲の基金

纏いて 同十分ソアラを 曳行したを描き、 目返り、 低空飛行を敢行 り、海行かばを合唱、本田思 飛行機が条数、けふの大進設を駅 がら別れの合闘をして會場一面 洞車哲学氏はこの棕貫玉夫人忌明 れる岩質な弦を 五千圓をぼんと禁出し、開係者を を國防献金並に客附にと政洞は在 【明川】 東面極 府民館に集ひ、陸海荒鷲の實戦の様相を聴け 向山海軍大

図的家金五十四本自傳図、煙の「沙金沙県明氏は十三百武士会」 畑二十四 川二十四 八原紀)下武士会 「所を通り会三十回を推奨(戦)

所を通じ金三十四を海軍へ献金手

(無料)

奮起せよ半島若人



軍00航空部隊向山大尉陸軍00

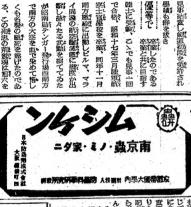
講師の海鷺向山大尉入城 空大會、落下傘降下、戦約機会 な回辺那るうちに迎へる第四回航

西島を招集して電施打合を開催

話だしく遅れてゐる、目下の 元が絶對に必要だと思ふ、 要だ、軽金融も同様ですべて しさらの研究機関と共に 関の一つや二つは是非必 無機化學、冶金部門の研究 い何れにしても急速に整 富た、鮮塵峰土が駄目だ、 究しないのか、既成

DATA C

映画を開催した おいて水利組合作業場勤労管理 座談會「頭」即では



【長丞補】一蔵局の追腹に伴ひ敵力

解析入明 解析入明 解析入明 教研・

日本數學鍊成所

△數學者於養成

十月四日開講 高峰科(大學程度) 要現四則

十六日より廿二日迄

座 治 明 場劇品日京

手を告式は十七日午前九時から神【大邱】神社第二次個造然工事着

母總施工會頭ほか脳豚に難行した

本田中尉の卷

配めて悠久に流れ

旅路壓線回輪洞 を血で彩り借く

てゐた、爲常科五年生の時、こんな逸話がある

に入盟し軍事酸線や演習をやつ

し僕も軍人になる」と高々決意

観常六年生の健時卒第した上級の頃から兵隊好きでもあつた、 た。僕は軍人大好きよっと幼少

うになった、またこんな話もい

で負けず嫌

にありながら朝は必ず五時起床 一の年の日常を聞き問題の國境

少年に大きな無貧の成化を興 にたとうといる冤鼠を生 を威格にし何時でもお頭の

の第を掛けた生 馬一中婦女大

校に第一少年の自組は約半周も、後48年前557~3至~年554、分れてある。 これらの総話は城少の城から戦 へられてある

官の選隊大尉が見込み爾來一ケ

後なほ回むといふ強い神が暗は れてゐたことを物語るものでい

を手仰ひながら真面目に勉強し

校風を改めた。正義の鐵拳

強けてゐた、その時

最終の コースに催つてゐ

御造營工事

此大前において整数音級級高量知

着手奉告式

天寂

(1) 1 (1)

若

| 現場の | 現場の | 現場の | 日本の

場劇

場劇陸大|場劇洋東

座富新

館花浪館樂

座日朝

十五日より入日間 東京大島韓传 松本高麗三郎 | 耶 一、海山水海海 一、海山 忠統海 一、海山 忠統

館畫映信和

大日ッシュナー 日本ニュー マー本ニュー ・き き き 場劇南城

集金人財婦を求した。

海州荒戦の戦極戦と航空知識

引懿

智體稱背年氏住 公。 火催名所

共何に対している。

喜

場劇花桃

場劇央中

朝鮮郵船。會社 空子师